

英語科学習指導案

指導者 澤田直美

ALT Sam Gledhill

1 日時 令和元年10月8日(火) 5校時

2 学級 3年3組(男子16名, 女子15名 計31名) 東校舎2階3年3組教室

3 主題 My Project 8 日本文化を紹介しよう(Sunshine English Course 3)

4 主題について

本単元は、中学校学習指導要領外国語編の目標「(4)話すこと[発表](イ)日常的な話題について、事実や自分の考え、気持などを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする」を学習できる単元である。題材としては、2学期中盤に設定する口頭発表活動として、自分が住む地域の伝統行事やまつりなどについて紹介するスピーチを行う。

本学級は明るく元気な生徒が多い。学力差が大きいが、ペアやグループワークなども協力しあっている。これまでのMy ProjectやPower-UPのSpeakingでもループリックを示して取り組ませることで、A評価を目指して積極的に取り組む姿が見られた。しかし、説明文になると語彙や文法など英語の正確さや、聞き手意識をもった伝え方に課題が見られるので、どのような発表がよいのか生徒達に考えさせ、グループの中で助言し合う場面を設けるなど練習を工夫して、パフォーマンステストへつなげていきたい。事前に原稿を作成するため、即興的に話すことは目標としないが、インタビューの後に自由質問の場面を設けて、即興的なやりとりにも積極的に挑戦させたい。

モデル文としてハロウィーンと十五夜を扱い、文章の構成(情報の流れやつながり)を理解させ、さらに節分や七夕を説明した文章から、役立ちそうな表現を抜き出し、英作文づくりの参考にして取り組ませたい。また、紫波町と盛岡市はともに東京オリンピックのカナダチームのホストタウンになることから、海外からのお客様に日本文化を自分の経験や考えを加えながら説明できるようにしたい。本単元のスピーチ活動は、即興的に話すことは目的とせず、事前に原稿を書き、練習した上で発表活動を行う。原稿を準備する段階で「読む」「書く」活動を、発表活動では「話す」「聞く」活動に重点を置くことで4技能の総合的な指導ができると考える。発表原稿は既習の言語材料を用いて作成するが、3年2学期に学習したcall+O+C, make+O+C, 現在分詞や過去分詞の形容詞的用法などの表現も積極的に使わせたい。

5 本時の達成目標

海外からのお客様へ、日本の伝統行事や文化・祭りなどについて説明する文章を書くことができる。

6 評価場面での生徒の記述例

【外国語表現の能力】

おおむね満足 B	十分満足 A
自分が住む地域の伝統行事や祭りについて、文章の構成(情報の流れやつながり)に留意して、伝えることができる。	自分が住む地域の伝統行事や祭りについて、文章の構成(情報の流れやつながり)に留意し、自分の経験や考えを加えながら、伝えることができる。

7 振り返り場面での生徒の記述例

最初は原稿に頼ることが多かったが、コンセプトマップを用いることで、原稿から目を話してアイコンタクトをしたり、リアクションをしたりすることでより自然な対話に見えるようになった。次のパフォーマンステストでは、他者からのアドバイスを参考にして、よりよいプレゼンテーションにしたい。

8 本時の展開

段階	学習内容	指導上の留意点 評価の観点・方法 ◆教材・教具等
導入 10分	1 ペアで定型表現の練習をする。 2 教師のモデルをみる。 3 学習課題を把握する	1 ペアで協力して活動する雰囲気づくりと定型表現の文のインプット ◆学習シート 2 モデルを見て、印象に残ったことから、伝え方の工夫のポイントを捉えさせる。
オリンピックで来町する海外の方へ日本文化や行事について、伝える工夫をしよう。		
展開 35分	<p>第1ステップ</p> 5 発表の工夫の確認と、練習（個人） 【主体的】モデルを参考にして、コンセプトマップを使いながら、相手に伝えるための工夫を整理し、発表活動に活かす。	5 コンセプトマップを用いて、原稿を見ずに伝える工夫を考えさせる。 6 聞き手は即興で質問をしたり、具体的なアドバイスを伝えたりする。または、発表者が発表内容について確認する質問をする。
<p>第2ステップ</p> 6 グループ内で、発表を見せ合う。 【対話】活動を繰り返すことで、互い発表からよりよい表現の仕方を学びあう。また、質問にその場で考えて、即興で応答する。		
<p>6 【表現の能力】</p> 自分が住む地域の伝統行事や祭りについて、文章の構成（情報の流れやつながり）に留意して、伝えることができる。 A: 自分が住む地域の伝統行事や祭りについて、文章の構成（情報の流れやつながり）に留意し、自分の経験や考えを加えながら、50語程度の英語で伝えることができる。 C: 原稿を見ながらも、聞き手へのアイコンタクトをとる場面や、伝わる声量を意識させる。		
7 数名が代表として、発表する。		
<p>ラストステップ</p> 8 個人で再度、練習する。（コンセプトマップの見直しや補足）		
終末 5分	9 学習活動を振り返る（個人）。 10 次時の予告	9 【リフレクション】本時の学習で気づいたことや学んだこと、次時のパフォーマンステストで活かしたいことなどを振り返らせる。 ◆自己評価カード 10 次時がビデオ撮影のあるパフォーマンステストであること、各自で表現の工夫しながら、家庭で練習することを伝える。

9 指導と評価の計画

3年 英語		単元名 My Project 8 日本文化を紹介しよう	総時間 6時間扱い
学習指導要領の指導事項		単元の目標	
(4) 話すこと [発表] (イ) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持などを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする		表 自分が住む地域の伝統行事や祭りについて自分の言いたいことを、既習の表現を活用して伝えることができる。 コ 聞き手を意識して、内容が伝わるように工夫して話すことができる。	
時	主な学習活動	おおむね満足 (B)	
1	単元の目標・流れについて確認する。 モデルとなるスピーチ原稿を読み、文章の構成を理解する。	表 モデル原稿から、名称・起源・風習・現在との関連の流れで構成されていることに気づき、例文を再構成することができる。	
2	様々なモデル文を読んだり、書いたりしながら、よく使う表現を確認し、自分の構想に役立てる。	表 七夕や節分の説明文を読み、よく使う表現や役立つ表現を抜き出すことができる。	
3	日本の伝統行事や文化に関する説明文の構想をねり、マッピングする。	表 準備してきたメモをもとに、説明文の構想をねり、マッピングを完成させ、英語で書くことができる。	
4	マッピングをもとに、日本の文化や行事について説明する文を書く。	表 マッピングをもとに50語程度のスピーチ原稿を、完成することができる。	
5 (本時)	聞き手を意識して、スピーチのための表現を工夫する。	表 自分が住む地域の伝統行事や祭りについて、文章の構成(情報の流れやつながり)に留意して、伝えることができる。	
6	聞き手を意識して、わかりやすい発音と十分な音量で説明する。 ※パフォーマンステスト	コ 小道具やジェスチャーも使いながら、積極的に聞き手に伝えようとしている。 表 わかりやすい発音やリズム、十分な音量で、スピーチすることができる。	